

# 荒川再生

荒川流域では都市化とともに自然が次々と失われつつあり、平野部で自然がまとまって残る場所の多くは河川敷というような状況にあった。荒川ビオトープは、河口から 57km の荒川本川中流部に位置している。この周辺の地域では、かつてはタカの仲間のサシバや、キツネが繁殖していたが、自然環境が悪化するにつれ、姿を消した。このため、河川敷の麦畑や牧草地などの平坦地を改善し、隣接する北本自然観察公園とあわせ大規模な自然を確保し、生物の生息環境の整備が進められている。また、下流域では、水辺空間の整備の一環として、再開発事業と一体となった堤防整備が行われている。

## ◆ 再生のポイント

- 多自然型川づくり
- ビオトープ整備
- 水辺空間の整備

## ◆ 荒川概要

荒川水系はその源を秩父山地の甲武信ヶ岳こぶしがたけに発し、大洞川おおほらがわ、浦山川うらやまがわ、市の川いるまがわの各支川を合流した後、東京都北区において隅田川を分流し、東京湾に注いでいる。

その流域は埼玉県及び東京都にまたがり流域面積 2,940km<sup>2</sup>、流路延長は 173 km である。流域内の人口は約 905 万人で人口密度は、日本の一級水系の中で鶴見川について高い。



## ◆ 再生のために実施した事業

### 【多自然型川づくり】

荒川の豊かな自然を保全・創出するための試みとして取り入れられた。川の流れを自然に戻し、自然の材料を使った工法で生態系に配慮し、地域の風土にあった景観の創出等を行った。治水面からの検討も重ね、工法や技術、材料などの開発も行われている。

### 【ビオトープ整備】

荒川沿いの北本自然観察公園きたもと(33ha)と荒川の河川敷(荒川ビオトープパーク)を一体とした面積約 50ha 以上の大ビオトープ空間が創造されることとなった。荒川ビオトープパークは、荒川と荒川旧川の間広がる農耕地として利用されていた高水敷を、池や沼、砂礫地、草地、旧川を生かしたワンド等の多様な場に変え、生態系豊かな水辺空間として再生するものである。

### 【水辺空間の整備】

国土交通省が行っている荒川下流・小松川地区スーパー堤防事業では、再開発事業と一体的な整備が進み、堤防上には、千本桜公園が整備されている。堤防と平行して都市計画道路 122 号が整備されているが、小松川中央公園のところでは、道路が堤防の中に埋め込まれた構造となっている。そのために、小松川中央公園と千本桜公園が連続し、人々が一体的に水と緑の環境を利用できる空間をつくり出している。



出典：財団法人リバーフロント整備センターHP ([http://www.rfc.or.jp/kawa/kawa\\_f.html](http://www.rfc.or.jp/kawa/kawa_f.html))

『川人街一川を活かしたまちづくり』 財団法人リバーフロント整備センター編 山海堂  
荒川水系河川整備計画策定への取り組み

(<http://www.hrr.mlit.go.jp/uetsu/jigyuu/seibijigyuu/seibikihon.html>)